2012 年　長崎市内観光

右城　猛

1.　まえがき

長崎県の森林土木技術者を対象にした「平成 24 年度森林土木技術研修会」が 11 月 12 日，13 日と二日の日程であり，12 日の 13 時から講演を頼まれていた。

長崎には，佐世保や雲仙，島原に何度か行っているが，長崎市内は中学校の修学旅行，1981 年の会社の慰安旅行以来である。それから 30 年以上経っている。一度はゆっくり観光したいと考えていた。

10 日の土曜日に高松市で日本技術士会中国本部と四国本部との意見交換会があった。会議に参加した後，高松駅から JR を乗り継いで長崎に入り，翌日の日曜日と月曜日の午前中に市内観光することにした。

10 日の午前は，中島川の石橋群，諏訪神社，長崎歴史文化博物館を見学。午後は，長崎駅前から 12 時に出ている定期観光バスの「長崎よかとこコース」で，長崎原爆資料館，長崎平和公園，出島，孔子廟，大浦天主堂，グラバー園を観光。

11 日の午前は，出島橋，長崎港を徒歩で散策してから，タクシーで興福寺，崇福寺，亀山社中，聖福寺を見て回る。

2.　中島川の石橋群

長崎の中心部を流れる中島川に架かっている石橋を見学する。11 の石橋のうち 6 橋が 1982 年の長崎水害で流出し，眼鏡橋，桃渓橋，袋橋は半壊した。半壊した 3 橋は復元されたが，流失した 6 橋は石橋を模したコンクリート橋になっている。

石橋群が見られる中島川

袋橋。眼鏡橋の下流にある。架設年月は不明。眼鏡橋についで古いとの説もある。たびたびの洪水に耐え，流出を免れている。

山口の錦帯橋，東京の日本橋と共に日本三大橋の一つとされている「眼鏡橋」

眼鏡橋は，我国最古の石造アーチ橋。1634年に興福寺唐僧子禅師（とうそうもくしぜんし）によって架設された。1960年に国の重要文化財に指定された。長崎の石橋のなかで本物の石橋はこの橋と桃渓橋と袋橋のみ。

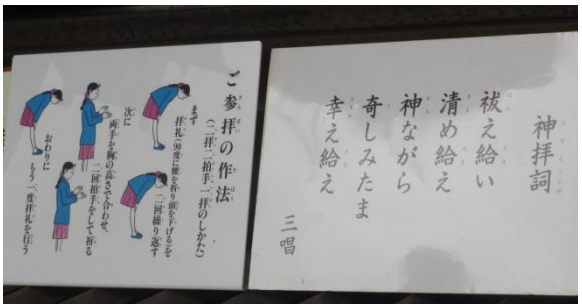
橋長 22m，橋幅 3.65m，橋高 5.46m

東新橋。初代の石橋は 1673 年架設。1982(昭和 57)年の長崎大水害で流出した。現橋はコンクリートアーチ橋。

3. 諏訪神社

毎年 10 月 7，8，9 日に「長崎くんち」が行われる諏訪神社入り口の鳥居。

諏訪神社本殿。七五三を祝う家族が連れだって多数訪れていた。



ご参拝の作法(二拝二拍手一拝のしかた)と神拝詞(となえことば)が書かれた紙が貼ってあった。

祓え給い　清め給え

神ながら　奇(くみ)しみたま

幸(さはわ)え給え

三唱する

諏訪神社の境内に祇戸神社があり，その前に，なぜか福沢諭吉の像があった。

諏訪神社の近くに長崎歴史文化博物館があったので立ち寄る。定期観光バスの受付の時間が迫っていたのでさっと見学する。

4. 長崎原爆資料館

昭和 20 年 8 月 9 日，広島に続き長崎にも原子爆弾が投下された。第 1 爆撃目標であった小倉上空に到着した原爆搭載機「ボックスカー」は，前日の焼夷弾による八幡空襲の煙のため視界がきかず投下を断念。第 2 目標であった長崎市に向かい，高度約 9000 メートルから原子爆弾を投下。松山町の上空約 500 メートルで炸裂。広島に落とされたウラニューム爆弾よりさらに大きな破壊力をもつプルトニューム爆弾が使われ，死傷者約 15 万人の大惨事となった。

長崎原爆資料館は原爆投下直後の長崎のまちの惨状を再現し，原爆による被害の実相を伝え，核兵器のない世界をめざして，多くの資料を展示している。

資料館の入り口

長崎に投下された原子爆弾の模型

中性子線の威力を示した模型。アルミニウム，鉛，コンクリートも通過する。

資料館の内部の様子

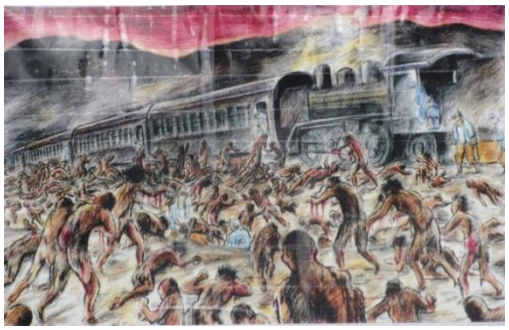
5. 長崎平和公園

平和公園は，長崎駅の北約 2.5km に位置する面積約 18.6ha の総合公園。世界平和と文化交流のための記念施設として昭和 26 年に整備されたもの。

その中の「願いのゾーン」に位置づけられる祈念像区域を見学。平和祈念像を中心に，平和の泉，世界各国から寄贈されたモニュメントなどを設置し，平和を願う場にふさわしい空間として整備されている。

平和祈念像。長崎出身の彫刻家・北村西望氏の作で，昭和 30 年（1955 年）に完成。像の高さ約 9.7m，重さ約 30 トンの青銅製で，「右手は原爆を示し，左手は平和を，顔は戦争犠牲者の冥福を祈る」と作者の言葉が台座の裏に刻まれている。

長崎の鐘。当時，被爆地には戦車などを生産する多くの軍需工場があり，動員学徒，女性挺身隊と呼ばれた中学生や女学生をはじめ，多くの人々が働いていた。長崎の鐘は，33 回忌にあたる 1977 年にここで亡くなった方々の冥福を祈るためにつくられたもの。



昭和 20 年 8 月 9 日。原爆で破壊された三菱兵器製作所大橋工場で生き残った早崎猪之助(当時 14 歳)が多くの重傷者とともに救援列車を脱出した。その惨状は生涯忘れることができない。(画・マルモトイヅミ)

平和の泉。水を求めながら亡くなった原爆犠牲者の冥福を祈り，昭和 44 年につくられた。

6. 如己堂と山王神社の鳥居

如己堂（にょこどう）。永井隆（医学博士）が白血病の療養をしていた建物。長崎の被爆から約 3 年後の 1948 年（昭和 23 年）3 月，長崎市浦上の人達やカトリック教会の協力により建てられた。この二畳一間の部屋で，永井隆の著名な作品の数々が生まれた。隣接地に長崎市永井隆記念館が建てられている。

永井博士一家(写真右より誠一さん,博士,茅野さん）インターネットより

観光バスが如己堂の前を通過する際，バスガイドが，永井隆博士の作品「この子を残して」の一節を紹介してくれた。感動して涙が止まらなかった。

『うとうとしていたら，いつの間に遊びから帰ってきたのか，カヤノが冷たいほほを私のほほにくっつけ，しばらくしてから，

「ああ，……お父さんのにおい……」

と言った。

この子を残して――この世をやがて私は去らねばならぬのか！

母のにおいを忘れたゆえ，せめて父のにおいなりとも，と恋しがり，私の眠りを見定めてこっそり近寄るおさな心のいじらしさ。戦の火に母を奪われ，父の命はようやく取り止めたものの，それさえ間もなく失わねばならぬ運命をこの子は知っているのであろうか？・・・』

作詞サトウ・ハチロー，作曲古関裕而，歌藤山一郎,池真理子による歌謡曲「長崎の鐘」は，永井隆のことを歌ったもの。

こよなく晴れた　青空を
悲しと思う　せつなさよ
うねりの波の　人の世に
はかなく生きる　野の花よ
なぐさめ　はげまし　長崎の
ああ　長崎の鐘が鳴る

召されて妻は　天国へ
別れてひとり　旅立ちぬ
かたみに残る　ロザリオの
鎖に白き　わが涙
なぐさめ　はげまし　長崎の
ああ　長崎の鐘が鳴る

山王神社の二の鳥居。原子爆弾の炸裂による爆風によって片方の柱がもぎとられている。

7. 出島

出島（でじま）は，1634 年江戸幕府の鎖国政策の一環として長崎に築造された人工島。扇型になっており面積は 3969 坪（約 1.5 へ

クタール）。1641 年から 1859 年まで対オランダ貿易が行われた。

1883 年（明治 16 年）から 8 年間にわたって行われた中島川河口の工事によって北側部分が削られ，1897 年（明治 30 年）から 7 年にわたって行われた港湾改良工事によってその周辺を埋め立てられ，島ではなくなった。

1996 年（平成 8 年）度から長崎市が出島の復元事業を進めている。現在，商館長次席が住んだ「ヘトル部屋」，商館員の食事を作った「料理部屋」，オランダ船の船長が使用した「一番船船頭部屋」，輸入品の砂糖や蘇木を収納した「一番蔵」・「二番蔵」，オランダ船から人や物が搬出入された水門，商館長宅「カピタン部屋」，日本側の貿易事務・管理の拠点だった「乙名部屋」(おとなべや)，輸入した砂糖や酒を納めた三番蔵，拝礼筆者蘭人部屋（蘭学館）などが復元されている。

出島の北側。中島川の拡幅によって一部削られている。出島に出入りしていた正面の橋も撤去されている。

出島の入り口

出島の模型

出島の中の復元された建物。写真右の建物は，商館長宅「カピタン部屋」

8. 孔子廟

1893 年清国政府と在日華僑が協力して中国の総本山なみに伝統美あふれた孔子廟がつくられ，その後いくどかの改築で本格派の中国式孔子廟として現在に至っている。

「孔子廟」には，孔子と 72 賢人石像や孔子の教えを始め，中国の文化・学術を伝える施設の「中国歴代博物館」も孔子廟の「大成殿」裏にあり，中国の貴重な資料とともに，一般に公開されている。

1990 年には北京故宮博物院提供の＜北京故宮宮廷文物展＞　として，2 年おきに展示品を入れ替え中国文化の至極の品々の紹介されている。

72 賢人石像と孔子を祀った大成殿

背後の教会は大浦天主堂

孔子廟の入り口の門

旧グラバー住宅。日本で最も古い木造西洋風建築で，国の重要文化財。

9. グラバー園

観光バスでの最後の観光地はグラバー園。

安政 6 年（1859 年），横浜，函館とともに開港した長崎には，南山手，東山手を中心にたくさんの洋館が建ち並んでいた。その建物を移設して保存するため作られたのがグラバー園である。

グラバー園入り口の土産物店

グラバー邸の内部

旧三菱第 2 ドックハウス。「ドックハウス」とは修理のために船が造船所に入っている間,乗組員たちが宿泊していた施設のこと。明治 29 年に作られた典型的な西洋建物。ベランダからは，今から 430 年以上前に開港した長崎の港，そして正面に稲佐山が見える。

ドックハウスのベランダからの眺め。三菱造船が見える。

ドックハウスの池にはたくさんの錦鯉が泳いでいた。

ドックハウスの中には，坂本龍馬の等身大の写真が飾られ，龍馬と一緒に記念撮影を撮れるようになっていた。

この横の部屋には，高知県立坂本龍馬記念館から寄贈された龍馬の写真が貼られていた。

旧自由邸。2 階は自由邸喫茶室になっている。オランダ人の手で考案されたダッチコーヒーを飲むことができる。

「自由亭」は，江戸時代の終わり頃，日本で初めて西洋料理のレストランとして，伊良林（いらばやし）の神社前に草野丈吉が作ったもの。検事正官舎として使われていたが，昭和 49 年グラバー園に移築復元された。

ダッチコーヒーとは，24 時間かけて，水で一滴ずつ抽出された薫り高く濃厚なコーヒー。

グラバー園出口に長崎伝統芸能館があり，この中を通らなければ外に出られない。

長崎の氏神様である諏訪神社の秋の大祭，「長崎くんち」を大型スクリーンにてビデオ上映，奉納する踊り龍や，龍船，唐人船，傘鉾などが展示されている。

長崎くんちとは，370 余年の歴史と伝統を持つ，秋の大祭。旧暦 9 月 9 日に行っていたことから，9 日すなわち「くんち」と呼ばれるようになったと言われている。

10 月 7，8，9 日の 3 日間かけて開催される。初日の 7 日は諏訪神社の踊り馬場で各踊町により踊りが奉納される。

8 日は，各踊町は花（寄付）をもらい，市内を踊り歩く庭先周り。

9 日は，3 つの御輿がお旅所から諏訪神社へと戻り，御輿を担いだまま参道の坂段を駆け上がる「おのぼり」が行われ，3 日間の祭りの幕を華やかに閉じる。

「長崎くんち」の白龍

グラバー園の土産物店

宿泊した新地のワシントンホテル。左側に中華街の入り口の門が見える。

10. 出島の周辺

現役の道路橋では日本最古の橋。明治23(1890)年に中島川の河口に新河口橋として架けられていたが，明治 43 年にこの場所に移設され，出島橋と改称された。

部材がボルトで結合されたプラットトラス。鉄材はアメリカから輸入され，日本土木会社によって施工された。

出島橋

出島の南側護岸石垣。昔の護岸が復元されている。

長崎出島ワーフ。この背後に海鮮料理を食べしてくれる店が軒を並べている。

長崎港に停泊している咸臨丸(かんりんまる)

11. 興福寺

興福寺は国内初の唐寺。中国・明の商人が1602 年頃に航海安全を祈願してこの地に小庵を造ったことに始まる。この時代は，幕府のキリスト教禁令が厳しく，仏教徒であることを証明するためにも，崇福寺，福済寺，聖福寺など次々と唐寺が建てられた。

山門

右の建物が国の重要文化財に指定されている大雄宝殿。左の建物は市の有形文化財の瑠璃燈。上海から運ばれ，本堂内で組み立てられた。

僧達に飯時を告げるために叩く魚板。どこの禅寺にもあるが，揚子江にいる幻の魚「けつ魚」を彫ったこの魚板は全国一の最優秀作と言われている。

12. 崇福寺(そうふくじ)

竜宮門と呼ばれている崇福寺の三門。重要文化財に指定されている。

崇福寺は 1629 年に長崎に在留していた福州人たちが，故郷福州の僧超然を迎えて作った寺。明の末期から清の初期の南支建築様式を輸入したもので，わが国には類例がない。

国宝の第一峰門。唐門，赤門，海天門などとも呼ばれている。中国で切組み唐船で輸入して組み立てたもの。

崇福寺の本堂で国宝に指定されている大雄宝殿。1646 年の創建。

重要文化財の「まそ堂」。海上安全の守護神「まそ」を祀っている。

崇福寺の大釜。天和年間の飢饉のとき，住持千呆禅師が書籍を売ってお粥を施した。そのとき作った 4 石 2 斗を炊いたと伝えられている。

第一峰門から眺めた三門

13. 亀山社中

薩摩藩などの援助によって 1865 年に坂本龍馬によって組織された日本初の商社。興福寺の上の斜面にある。

記念撮影用のブーツと舵

亀山社中の入り口

亀山社中をおいていた建物。NHK 大河ドラマ「龍馬伝」が放映された頃は，亀山社中記念館になっているこの民家に沢山の観光客が詰めかけ，入場するのに 1 数時間以上の待たされる状態になった。

亀山社中の内部の様子。亀山社中記念館という名前が付いているので，高知県立坂本龍馬会館を想像していたが，比較にならないほど貧相。

隣の部屋に龍馬に関する資料が展示されているが，少ない。撮影禁止であった。

若宮稲荷神社。楠本正成工の守護神である稲荷大神が祀られている。明治維新前後には，坂本龍馬ら多くの志士がたびたび参拝し新しい時代の到来を祈願したとされている。

境内に建立されている坂本龍馬像。

14. 聖福寺(しょうふくじ)

興福寺，福済寺，崇福寺と併せて長崎「4福寺」と呼ばれているが，有名なのは興福寺と崇福寺。他の２つの寺はどこにあるのかタクシーの運転手さえも知らない様子であった。

1703 年に建立された聖福寺の山門。

聖福寺天王殿

1678 年創建の聖福寺大雄宝殿

魚板

長崎市指定有形文化財の梵鐘「鉄心の大鐘」

15. 長崎の夜景

稲佐山の山頂の展望台から眺める長崎のパノラマ夜景は，「1000 万ドルの夜景」，あるいは函館，神戸と共に「日本三大夜景」と呼ばれ有名である。

ところが最近,「夜景観光コンベンション・ビューロー」の「世界新三大夜景」の一つに選ばれた。長崎の他は香港とモナコ。世界新三大夜景となれば見ない訳にはいかない。夜景を見るバスツァーがあり，宿泊していたワシントンホテルから乗車できたので参加した。

デジカメの夜景モードで撮影。

小型のデジカメでは人物と夜景とは上手く撮れない。バスガイドに展望台の壁面の写真の前で撮影することを教えてもらう。

16. 長崎の料理

「ちゃんぽん」「皿うどん」

長崎の人気中華と言えば，「ちゃんぽん」と「皿うどん」である。明治 32(1899)年に「四海楼(しかいろう）を創業した陳平順が考案した長崎料理である。

「ちゃんぽん」は，中国人留学生のために栄養価が高くてボリューム満点の安い料理として,福建料理「湯肉絲麺トンニィシィメン」(豚肉の細切りが入った湯麺タンメン)に改良を加えたものである。

「皿うどん」は，「炒肉絲麺チャニィシィメン」(麺と豚肉の細切りを炒めた焼きそばのようなもの)に改良を加えたものである。当初は，ちゃんぽん麺を炒めた太麺であったが，料理を簡便にするため油で揚げた細麺に餡をかけた皿うどんに変わってきたようである。

ちゃんぽんと皿うどんは，JR 長崎駅ビルアミュプラザ長崎５階の広東・台湾料理　皇上皇(コウジョウコウ)で食べた。四海楼で食べるとさらに美味しかったろうと思うのであるが，ちゃんぽんと皿うどんのことを知ったのは，長崎伝統芸能館の売店で売られていた四海楼の三代目陳優継社長の著書「ちゃんぽんと長崎華僑」(長崎新聞新書)を帰りの機内で読んだ時であり，手遅れであった。しかし食べようと思えば，四海楼のオンラインショッピングサイトからネット注文ができる。

長崎餃子

長崎に着いた夜，新地の中華街の中にある台湾料理の店「老李ラオリー」で「ビジネスコース」という簡単なコース料理を食べた。どの料理もあっさりして美味しかったが，特に水餃子は格別であった。

老李の「長崎水餃子」は有名で，大丸松阪オンラインショッピングでも「ベストセレクション人気のお取り寄せグルメ」でも販売されている。

17. あとがき

31 年振りの長崎であった。さすが観光地長崎である。見るところ,食べるところが多い。どこも素晴らしく，満足できた。

(2012 年 11 月 15 日)